

講師からのメッセージ

「乳がん予防研究の最前線 2012」

乳がんは、現在日本人女性で、最も多くの人がかかっているがんの一つです。

乳がんにかからないためには、乳がんの危険因子が何かを知り、それを減らす努力をすることがとても大切です。

今回は、これらの事をわかりやすくお話させていただきたいと思います。

**乳がんの危険因子である肥満・運動不足・飲酒習慣などを改善することによって、
乳がんにかかりにくい体を作りましょう！**

疫学・予防部 室長 伊藤 秀美

「乳がん検診、診断の最前線 2012」

「乳がん」は年々増加しており、今後も増加傾向は続く予想されます。そこで H22 年 10 月より愛知県がんセンター尾張診療所を、乳がん二次精査機関として開設し、主に検診で要精査となった方を対象に、乳がんの診断、良悪性の判断が困難な場合の組織診断を行っています。診療所で乳がんが診断された方は、がんセンター中央病院や近隣の病院と連携し、スムーズに治療に移行できるよう努めております。今では乳がんという診断のみに留まらず、乳がんの性質を詳しく調べ、一人一人に対して、より効果的な治療法や薬剤を選択し提案しております。

尾張診療所長 兼 乳腺科部 医長 堀尾 章代

「乳がん治療の最前線 2012」

乳がんの治療において大事なことは、まずは正確な診断です。乳がんの進み具合と同時に、顕微鏡レベルにおけるがん細胞の特性（病理診断と言います）をつかむ必要があります。その上で、その特性にあった治療方針を組み立てます。治療としては、手術、化学療法（抗がん剤）、放射線治療、内分泌治療、分子標的治療などがあります。手術は乳房の温存手術、全摘術に加え、最近では全摘術と同時に乳房を作る、再建術が増加しています。センチネルリンパ節生検は既に標準的な治療となっています。当院での最新治療の取り組みとしては乳房温存手術中に放射線照射を行う試みや、まだ日本では認められていない薬剤の治験などがあり、本講座ではこれらも含め紹介したいと思います。

乳腺科部 医長 澤木 正孝